思想論と思想史／哲学か歴史か　　　　　「正しい解釈」はあるのか？

参照：Q.Skinner 「思想史における意味と理解」

　　『思想史とは何か』岩波セレクション２１

・テキスト主義：あるテキストの理論的意味を問う（時代を超えた普遍的意義）。

　　　　　　・その研究手法はテキストの精読

「古典的作品を歴史のコンテキストからまったく切り離して、政治の真実についての普遍的命題を提示しようとする、変わることなく永久に重要な試み」として再評価すること

　　　　　　・その問題性：現代的視点の過去への投影・密輸入

４つの神話：

①教義の神話

②一貫性の神話

③予期の神話

④偏狭性(parochialism)の神話

コンテキスト主義：あるテキストのもつ歴史的意味を問う（テキストは、それを生み出した時代的・社会的コンテキストから理解されるべきである）。

　　　　　・その研究手法は思想家の生涯や彼の時代の研究

　　　　　・その問題性：「客観的で正しい思想解釈？」  
　　　　　図式的で表面的な思想理解

　　　　　　(言説を生み出した原因と言説そのものの混同）

スキナーは哲学的理解と歴史的証拠とのあいだの対話可能性を主張するが…